
ワンピースの世界へ（仮）

マデイラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピースの世界へ（仮）

【Nコード】

N0963Z

【作者名】

マデイラ

【あらすじ】

いつものように自分のベットで寝たはずなのにいつの間にかジャングルにいた。あれえ？なんでこんなところにいるんだろう？疑問を抱きながら、周囲を彷徨う。木々を抜けたところに一つの小屋が。とりあえず、泊めて貰おう・・・そこから始まる青年の冒険記。

どこの世界？（前書き）

前作原子崩しとメルヘンを改訂。

原子崩しは変わらず、メルヘンが月光蝶なるかもしれない。

どこの世界？

「ここはどこでしょうね？」

絶賛迷子児の秋人です。

いつものようにバイトから帰り、貰った残り物の弁当を食べ風呂に入って寢床に就いたはずが……。なぜこんな見渡す限り木々木々木。

神様、俺なんか悪いことしました？・・・ダメだ。心当たりが有りすぎる。・・・天罰？さすがにそれは無いね。だって俺、心優しい一般人だもん。

「ふむ……。知り合いの嫌がらせか？嫌がらせにしてもこんな密林に放置プレイはないだろう」

気味の悪い鳴き声もするし……。それに放置されて喜ぶ性癖を持ち合わせてはいない……。はず。

「とりあえず彷徨うか」

フラフラ〜と気の向くままに右に行ったり左に行ったりしながらジャングルを彷徨った。

「さらに迷ったぞオイ。ここはどこだー！ー！！」

絶叫した俺を許してほしい。あれから何時間たったかわからないが、俺の体感時間では2時間は越えてるんだ。絶景を見ているなら飽きないかもしれないが、俺が見ているのは苔が生えた木。どこに面白みがあると言うんだ。

「ウキキキキ！！」

「・・・はい？」

奇声がした方向に顔を向けると・・・腕が四本ある猿？がいた。

そのゴリラ？はどうも俺を食いたいらしい。その口から生える鋭利

な牙と逞しい両腕？をこちらに見せびらかしながら涎を垂らしている。

「Oh・・・グレイトな歯と腕を御持ちのようだ。だが、それを俺には使わないでほしい・・・無理そうだけどねっ!!」

叫びながら今までで一番早いんじゃないか？という速度で俺は逃げた。

後ろから奇声と木々をなぎ倒す音が聞こえたため、さらに力を振り絞り速度を上げた。

だってねえ？早く逃げないとグロテスクなものになっちゃうよ、俺。肉片飛び散らすことになればまだしも、噛み砕かれるのは無理。どちらでも無理だが。

暫く死の追いかけてこを猿としていたが、長くは続かなかった。

別の生物の横やりが入ったのだ。猿は俺を食うより先にライオン？を倒すことに決めたらしい。猿とライオンが戦利品（俺）を賭けたバトルロワイヤルを始めていた。・・・臨場感たっぷりの特撮映画にできるぞおい。

・・・ここホントに地球か？明らかに進化の仕方間違ってるだろうあれ。

まあ助かったからいいとするかね。

「それにしてもここどこさ。休める場所があればいいんだが・・・あったし。」

死ぬ気のグルメレースを勝利したが、疲労感がパネエ・・・どこかに休める場所はないだろうか？と探していると、まだ古い小屋が建っていた。・・・あんな生物の住んでいるところによく建てられるな、オイ。

「お邪魔します・・・」

警戒しつつも中に入ると・・・人がいた。中世ヨーロッパ時代の海賊のような服を着た白骨化した遺体だけでも。

ジャックさん（海賊的な服装から）を小屋の横に俺の腕時計と一緒に

に埋葬しておいた。お前のものは俺のもの、俺のものはお前のもの方式を採用。そして、家宅搜索開始。日記とか非常食とかあれば貰おう。・・・すまないジャックさん（仮）。生きるためなんだ。まだ丈夫そうな机の上に本類などを置いていく。

「ふう：これで全部か」

それなりに集まったな。一つ一つ見ていくか。

「まずこれだな」

俺が最初に手に取ったのは本だ。ジャックさん（仮）の日記ならいいんだが。

『誰でも出来る暗殺技術　ゼノ・ゾルディック著』

「Oh・・・ファンタジイ・・・」

驚愕。そして絶望が俺を襲った。

地球ではないと思っていたが、まさかの死亡フラグが建築されまくる世界だと!?!?・・・ん?

『翻訳　CP9』

CP9・・・ワンピースの世界かよ; どちらとも死亡フラグが。いや、まだわからん。決めつけるのは早い。

翻訳? どういうことだ? これは・・・HUNTERさんの世界の言語からから秘宝っぽい（まだ認めない）世界の言語に翻訳されたってことか?・・・ならゼノさんの本がワンピースっぽい世界に来たか、ゼノさんがワンピースっぽい世界に来たか。でもそれだとハンターさんの世界が大変なことになるよな。主要人物だし。多分、本だけこの世界に来たんだろう。・・・CP9すごいな、オイ。言語が違うのにどうやって翻訳したんだ。あれか、その道のプロには通じるもんでもあったのか。・・・少し気になるし、貰っておこう。暗歩があれば鼻が利かん生物に対しては有効だろう。

「二冊目次こそ日記」

『鍊金術　Dr・ペガバンク』

・・・この人が鍊金術を語るとか洒落にならん。マジで実現しそうなんだが。賢者の石とか。

「三冊目・・・日記なのか」

三冊目にしてやっとそれらしいものが出たが・・・少なすぎ。

おなか減った。そうだ、箱の中に入っていた果実でも食べよう。でも、なんでこれ腐ってなかったんだろう？まあいいか。

『これで俺も賞金首だ。大海賊へのし上がってやる。』

『なんなんだあの化け物は！？体が別の生き物に代わりやがる！つきあってられるか！俺は帰るぞ！』

『よくわからない場所に流れ着いてしまった。船もこの島の海王類に壊されてしまった。・・・ここで暮らそう、ひっそりと』

『この島の生態系のすごさに驚かされたがだいぶ慣れた。久しぶりに散歩にだけけると島の海岸線で転覆した船の残骸を発見した。何かないかと探せば・・・すばらしい！！大量の本と食べ物と宝箱があった！今日は祝いだ！！』

・・・ジャックさん苦勞してたんだな。海賊になって大成しようとしたけど、能力者に会ったんだろう。そして実力の差を知ったか。・・・そしてこの実ものすごくまずいんだが。・・・食うもんじゃないしいいか。

『宝箱の中には悪魔の実と呼ばれるものがあったが、俺は食う気にはなれない。あんな化け物みたいになりたくない。人として死にたい』

『この日記を読んだ若者よ。人を辞める覚悟があるならその実を喰え。そして俺が成しえなかった大海賊になるという夢を叶えてくれ』

『実と一緒に悪魔の実図鑑の切れ端が同伴していた。あのペガバンクが危険視したほどの実だ。最も、私には理解できなかったが。』

悪魔の実図鑑の切れ端の絵にもすごい身に覚えが。先ほどまで咀嚼していたんですが。

そう思っていた瞬間、俺の左手首が落ちた。

「なんじゃこりゃー！ってどう考えても俺が食った実の影響だ」
叫んでいる間にも俺の左手首から先が丸い粒状になりながら落ちて

いく。

[illegible]

願いが通じたのか粒状化の進行は左肩まで進行して止まってくれた。

「オーケーオーケー。今度は戻れや！」

元々は俺の体の一部だったんだから戻るだろうと念じると戻って
れた。・・・手首から先が這い戻ってくるという感じで。その動き、
台所にいる黒い奴。もちろん潰しましたとも。潰した後、空気が死
んだ気がしたが。2回目は左肩から元に戻そうとしたのであの動き
はなかった。

落ちて着いてから悪魔の実図鑑の切れ端を読んでみた。

悪魔の実図鑑

悪魔の実——ツブツブノ実

能力——体が粒状になる……。ただそれだけ。応用性もあまりない。ペガバンクの考察より危険。

私の粒子の考察を理解できたものがこの実を食べ能力を使用すれば、脅威となるだろう。

まさしく俺だな。俺、現代っ子だもん。理解できますし。脅威になるようなことはしないけどね。

とりあえずの目標は誰でも出来る暗殺技術の修得だな。・・・単純な身体能力を上げとかないとネ。無理な運動は体にあまりよろしくないから、ペガバンクさんの本でも読みながらやろう。能力の方は理論から入る修業ですな。

だが、今日はもう寝よう。おやすみなさうい。

どこの世界？（後書き）

感想意見待ってます。今回はなるべく反映しつつ修正を加えていきたい。

意見はなるべくオブラートに包んでください。
メルヘンじゃなく月光蝶になるかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0963z/>

ワンピースの世界へ（仮）

2011年12月3日19時01分発行